

台風10号接近に伴う農作物等の技術対策

令和6年 8月27日
飯塚普及指導センター

勢力の強い台風10号が、8月30日頃に福岡県に最接近する恐れがありますので、農作物等の管理につきまして、下記の技術対策を参考にご指導をよろしくお願いします。

なお、その他の対策については、「農業災害技術対策マニュアルと気象災害工夫事例集」（平成17年3月）を参考にしてください。

また、ほ場・農業用施設の見回りには気象情報を十分に確認し、大雨や強風が治まるまでは行わないで下さい。大雨等が治まった後の見回りにおいても、増水した水路など危険な場所には近付かない等、人命を最優先とした行動を徹底して事故の発生防止に努めるよう、併せて注意喚起をお願いします。

【普通作】

1 水稻

早期夢つくし

- (1) 収穫早限に達しているほ場は、可能ならば台風襲来前に収穫する。
台風通過後に収穫する場合は落水管理とし、通過後速やかに収穫する。
- (2) 収穫前1週間程度のほ場は落水管理とし、成熟期を迎えたら速やかに収穫する。
- (3) 倒伏が発生した場合、共乾施設に高水分籾が荷受けされるため、共乾施設では乾燥に時間がかかることを想定して荷受けを行う。

普通期水稻

- (4) 強風による倒伏や葉の裂傷、稲体表面からの蒸散作用により脱水症状となる「急性萎凋症状」が発生する恐れがあるため、台風通過時は深水管理を行う。
- (5) 台風通過後のイネは水分の吸収が盛んになるため、通過後数日間は、ほ場の水を切らさない程度に湛水状態を保つ。
- (6) 冠水した場合には、早急に排水を図り、冠水時間を短くする。排水後は、できるだけ新しい酸素を含んだ用水との入れ替えを実施する。

2 大豆

- (1) 大雨による停滞水を出来るだけ早くほ場外に排出するため、事前に畦溝や排水溝の整備を行う。
- (2) 台風通過後に、大雨でほ場内に停滞水がある場合は、本暗きよの栓を開けて排水するとともに、再度、畦溝や排水溝の点検整備を行う。
- (3) 台風通過後は、葉焼病など病害の発生が心配されるため、発生に注意し、必要に応じて適切な対策を講じる。

【施設（野菜・花き・果樹共通）】

1 事前対策

(1) パイプハウス・温室共通

- 1) 施設周囲の作溝により、施設内への雨水の浸入を防ぐ。
- 2) ハウス周囲にある飛散しそうな物は片付ける。
- 3) 加温機の煙突を片づける。また、オイルタンクの元栓は閉めて、本体が倒伏しないように十分固定する。
- 4) 出入り口の施錠や妻部の換気口等の固定を行う。
- 5) 農業用機械や器具は、風雨や浸冠水被害にさらされないように、格納庫など安全な場所に保管する。
- 6) 養液栽培等、停電による影響が大きい施設では、事前に自家発電機を準備する。

(2) パイプハウス

- 1) フィルム浮き上がり防止のため、ハウスバンドの増し締めと本数の追加、ネットでの被覆、換気扇の運転等を組み合わせる。
- 2) 雨除けハウスはサイドフィルムを下ろし、妻部分もフィルムを張り、隙間風が入らないようにする。入口は、引き戸が動かないように固定する。
- 3) 施設の強度が劣っている場合は、ハウスを補強する。また風速によっては被覆フィルムを剥ぐことも想定しておく。
- 4) 栽培終了しているパイプハウスは、被覆フィルムを剥ぐ。
- 5) 陽熱消毒中のパイプハウスは被覆フィルムを剥ぎ、地表面の被覆フィルムは飛ばされないように固定しておく。

(3) 温室

- 1) 引き違い窓は施錠等で固定する。
- 2) 天窓、押し上げが自動になっている場合は、手動に切替えて完全に締め切っておく。

2 事後対策

- (1) 施設の損傷、緩み等の有無を点検し、速やかに補修する。
- (2) 泥等を洗い流し、病害予防のため防除基準に基づいて低濃度の殺菌剤を散布する。
- (3) 停電復旧後は、直ちにタイマー等の調整を行う。

【野 菜】

1 事前対策

冠水や浸水の恐れのある場合は、排水対策を行う。

(1) 露地野菜

- 1) 収穫可能なものは台風接近前に収穫する。
- 2) 支柱や防風ネット、マルチを点検・補強する。

(2) 野菜苗（イチゴ苗除く）

- 1) 未定植の苗（ポリポット、セル成型苗）は倉庫等の安全な場所に搬入する。
- 2) 露地の苗床では、寒冷紗をべたがけして風でとばされないよう固定する。

(3) イチゴ

- 1) フィルムや寒冷紗を被覆している育苗床や本田は、被覆資材を取り外し、倒壊を防ぐ。

- 2) かん水施設の破損等が予想される場合は、取り外して片付けておく。
- 3) 苗はコンテナに入れて安全な場所に移動するか、寒冷紗等で被覆し四方を押さえる。
- 4) 棚育苗床は、架台を補強する。また、苗の損傷を少なくするため架台全体を、寒冷紗で囲み固定する。
- 5) 定植準備のため、本田地表面にフィルム被覆している場合は、飛ばされないように固定しておく。
- 6) 高設栽培施設は、架台を補強する。
- (4) 施設野菜（被覆フィルムを除去した場合）
 - 1) かん水チューブは取り外し片付けておく。また、頭上かん水施設は、マイカー線等で固定する。
 - 2) アスパラガスの被覆フィルムを除去する場合は、支柱を堅く打ち込み、支柱とハウスパイプをマイカー線等で強く固定する。

2 事後対策

台風通過後は、殺菌剤を散布する。冠水や浸水したほ場は速やかに排水を促し、茎葉に付着した泥等を真水で洗い落とす。

- (1) 露地野菜
 - 1) 支柱や防風ネット、マルチを点検・補修する。
 - 2) 株元が露出したものには、台風通過後に土寄せする。
- (2) 野菜苗、イチゴ
 - 1) 株に被覆していた寒冷紗等は、台風通過後、速やかに除去する。
 - 2) イチゴ苗の定植が大きく遅れる場合は、薄めの液肥などを施用する。
- (3) 施設野菜
 - 1) 台風通過後は、高温による蒸れや葉焼け防止のため、速やかにハウス換気を行う。
 - 2) 株が倒伏した場合は、直ちに株を起こす。

【果 樹】

1 事前対策

- (1) 防風林、防風ネット、果樹棚等の点検と補強を行う。
- (2) 排水溝の整備、点検、補修を行う。
- (3) 収穫期に達している果実は、速やかに収穫する。
- (4) 棚栽培の果樹では、園内を点検し、誘引がゆるんだ部分があれば棚面に再誘引する。また、果実が棚線に接しないように注意して結果枝の誘引を行う。なお、棚揺れによる落果を軽減するため、支柱の追加や支柱と棚線の固定、らせん杭等を使った棚の引き下げ等を行い、棚揺れを軽減する。併せて破風ネット（幅2m程度のネットを棚下に7～8m間隔で垂らす）を設置する。イチジクの一文字整枝は、結果枝の誘引を確実に行う。
- (5) 立木栽培は、枝折れや倒伏防止のため、支柱を立てて固定する。
- (6) シートマルチ栽培園は、シートの飛散や破損防止のため、押さえの補強、または樹冠下への収納、結束を行う。
- (7) 幼木は、強風に弱く、主枝、亜主枝等の損傷を受けやすいため、支柱等により固定する。

2 事後対策

- (1) 強風により果実や枝葉に微細な傷が発生し、病原菌の侵入が予想されるので、台風通過後には速やかに各地域の防除暦に従って薬剤散布を行う。降雨量が多かった場合、特にブドウではべと病、カキでは炭疽病、ミカンでは黒点病、褐色腐敗病、キウイフルーツでは果実軟腐病、イチジクでは疫病、核果類の細菌病等の発生に注意し、防除対策を講じる。
- (2) 強風により落葉した場合、日焼け果や生理障害果（軟果や空洞果）の助長、また品目によって不時発芽、不時開花による貯蔵養分不足を招く恐れがあるため、被害程度を確認し、果実への傘かけや着果調整、貯蔵養分確保に向けた葉面散布等の対策を講じる。
- (3) 品目によっては園内に長期間湛水すると根傷みによる樹勢低下を招きやすいため、過剰な土壌表面水を速やかに園外に排出する。
- (4) 落果、腐敗果、裂果した果実は、園外に持ち出す。
- (5) 樹体が傾いたり、根を露出した場合は、株を起こし、株元に土を寄せて固める。また、枝折れ等の樹体の損傷を受けた場合は、健全部まで切り戻し、切り口を塗布剤で保護する。

【花 き】

冠水や浸水の恐れのあるほ場は、排水溝を整備し排水に努める。マルチの浮き上がり防止のため、土または専用資材を活用し固定する。

1 事前対策

- (1) 切り花は、支柱を補強し、ネットの弛みをなくす。また、畝を横断し支柱をロープ等で連結する。
- (2) 挿し芽床では、苗の飛散を防ぐために、ハウス周辺に防風ネットを設置し、挿し芽床には寒冷紗をべた掛けする。
- (3) 定植直後のほ場は、寒冷紗や防風ネット等をべた掛けし、株の傷みを防ぐ。
- (4) 切り花の株は、数株をまとめて、紐で結束し固定する。
- (5) 収穫可能なものは、早めの収穫を行う。
- (6) 停電に備え、自家発電機を準備する。電照用電球等はソケットから外す。事後対策に必要な水を準備する。

2 事後対策

- (1) 冠水や浸水したほ場は、速やかに排水を促す。
- (2) 株が倒伏した場合は、茎曲りを防ぐため直ちに株を起こす。
- (3) ベンチ等の棚から落下した鉢物は、早めに立て直す。
- (4) 台風通過後は、葉茎に付着した泥を洗い流し、病害予防を兼ねて薄めの殺菌剤を散布する。
- (5) 停電復旧後は、直ちにタイマー等の調整を行う。
- (6) 台風通過後は、電照を再開する。キクは、2日以内の停電であれば、花芽分化の可能性は低い。

【畜 産】

1 飼料作物

- (1) 冠水や浸水の恐れのあるほ場は、排水溝を整備して排水に努める。短時間で台風接近前の完了が可能と判断される場合、収穫を検討する。
- (2) ほ場に水が停滞した場合は、排水口等の整備を行い、速やかに排水を図る。
- (3) 降水量が多い場合は、肥料の流亡も多くなるので、収穫までの期間が長い場合、追肥の実施を検討する。
- (4) 倒伏した場合は、収穫機への負担を考慮し、収穫方向をよく考えて作業機の運行速度を控えめにし、高刈りとするなど収穫時の土壌などの混入を避ける。

2 家畜

- (1) 強風に備えて畜舎を補強する。カーフハッチ等軽量物は固定する。
- (2) 大雨に備えて畜舎内外の排水溝の流れを点検する。
- (3) 畜舎内に雨が入らないように破損箇所は事前に修理する。
- (4) 停電に備えて自家発電装置への給油と作動確認等の準備を行う。併せて、浸水による漏電、ショートを防ぐため、回路の防水を確認し、不要な電源は切っておく。
- (5) 尿溜めや堆肥舎に雨水が流入しないように防水対策を実施する。
- (6) 台風通過後、気温が急上昇する場合があるので、風雨がおさまったら速やかに換気を行い、敷料の交換等をして畜舎内を乾燥させて家畜の快適性を確保する。
- (7) 畜舎内への浸水があったところでは、衛生管理に注意し、水洗のあと、消毒を行う。
- (8) 浸水被害にあった牛や子牛は、こまめな観察を行い、異常牛は速やかに診察を受ける。
- (9) 水に浸かったロールや購入乾草などは、カビの恐れがあるため給与しない。